

トピックス

予防接種

③ジフテリア・百日咳・破傷風混合 (DPT) ワクチン

ジフテリア(Diphtheria),百日咳(Pertussis),破傷風(Tetanus)の頭文字をとった 3 種混合不活化ワクチンです。いずれの疾患もワクチンでの予防効果が高く、特にジフテリア、破傷風の罹患予後は不良のため、幼児はもちろんのこと、成人も接種することが勧められます。特に破傷風菌は世界中どこにもあり、誰もがかかる可能性があります。

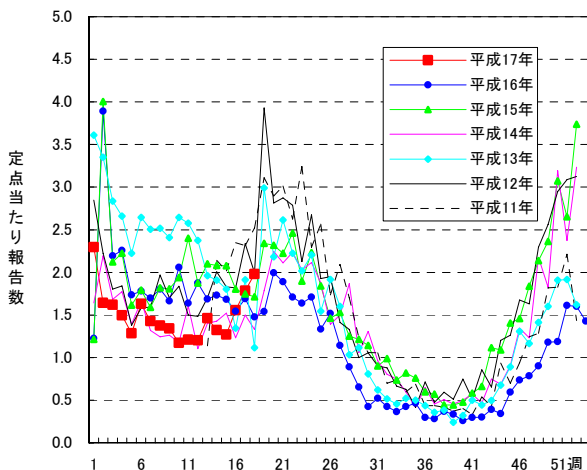
日本では DPT3 種混合ワクチンとして接種開始したのが 1968 年ですので、それ以前に生まれた大多数の方は破傷風の基礎免疫がありません。このグループに属する人は破傷風だけでもワクチン接種を受けてください。成人の場合、初回、1ヶ月後、6~12ヶ月後の計3回で基礎免疫は終了し、後は10年毎に1回追加接種をします。釘の踏み抜き、古木によるけがなど不潔な外傷後も基礎免疫のある人は追加接種1回、ない人は基礎接種2~3回を医療機関で忘れずに受けてください。副作用として10~15%に接種局所の発赤、硬結(しこり)がありますが、硬結は1週間ほど残ることはあっても放置しておけば消えます。また破傷風ワクチンは妊婦にも禁忌ではなく、むしろ致死的な新生児破傷風予防のため積極的に接種を勧める国もたくさんあります。DPT ワクチン開始年齢も日本では生後3か月となっていますが、早いところでは生後1.5か月から開始しています。このように DPT ワクチン接種は各国とも非常に重要視しています。接種時期が多少ずれても90月までにDPT(I期)として4回、11歳以上13歳未満にDT(II期)として1回、以後10~15年に1度追加接種し、確実に疾患の発症を阻止するよう努めましょう。中年期以降の成人で、特に危険地域に行く人、危険作業に従事する人は破傷風基礎免疫の獲得、10年毎の追加接種をお忘れなく。

* 予防接種ガイドライン (<http://www.mhlw.go.jp/topics/bcg/guideline/1.html>)

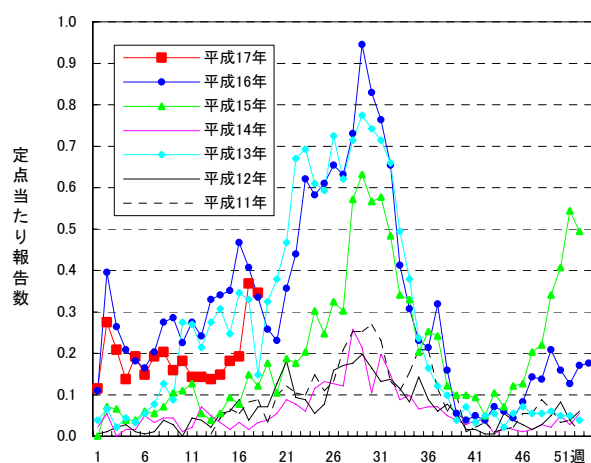
* 予防接種について (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/yobou_week.html)

流行状況





水痘






咽頭結膜熱



※ その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

疾患名	前週	今週	備考
水痘	1.8 	2.0 	「みずぼうそう」とも呼ばれ、ウイルスが原因で発生する人から人にうつる感染症
咽頭結膜熱	0.37 	0.35 	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症

定点当たり報告数		
	減少	
		
	横ばい	増加

◆ 愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

平成 17 年 5 月報

(5 月 11 日現在)

◆ 4 月の一～五類感染症（全数把握対象）発生状況

平成 17 年度に発生があった 疾病名 ()内は全対象疾病数	平成 17 年 4 月			平成 17 年度 累 計 (愛知県)	備考 (4 月)
	県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県		
一類 感染症 (7)					発生報告無し
二類 感染症 (6)	細菌性赤痢		2	2	
	腸チフス	1	1	2	
三類 感染症 (1)	腸管出血性大腸菌 感 染	13 (5)		13 (5)	O26 3 件 O157 10 件
四類 感染症 (30)	オウム病	1	1	2	
	マラリア	1	1	2	
五類 感染症 (14)	アメーバ赤痢	1	2	3	
	ウイルス性肝炎 (E 型肝炎及び A 型 肝炎を除く。)	1		1	B 型 1 件
	後天性免疫不全 症 候 群	2	4	6	AIDS 3 件 無症候性 2 件 その他 1 件
	梅 毒	3	2	5	早期顕症 3 件 無症候 2 件

()内は無症状病原体保有者、[]内は疑似症者の再掲

◆ 五類感染症（月報定点把握対象）発生状況

No	疾 病 名	平成 17 年 4 月			平成 17 年 3 月		
		県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体	県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体
1	性器クラミジア感染症	116	28	144	115	21	136
2	性器ヘルペスウイルス感染症	16	5	21	26	7	33
3	尖形コンジローマ	27	2	29	21	7	28
4	淋菌感染症	67	31	98	64	25	89
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	78	5	83	106	10	116
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症						
7	薬剤耐性緑膿菌感染症						

上記の報告数は感染症月報指定届出機関（性感染症：51、基幹：13 医療機関）で把握したものです。

感染症の類型及び定義

類 型	定 義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (6 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (1 疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (30 疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症（人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。）
五類感染症 (42 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

- 咽頭結膜熱 4 例あり（結膜炎の症状は、ごく軽いか無いものあり）。
まだロタウイルスと思われる感染性腸炎あります。
ヘルパンギーナ 2 名ありました。
【一宮市 あさのこどもクリニック】
- 病原性大腸菌 O18 5 歳男
インフルエンザはまだ検出されます (HI 法にて)。
重症のアデノウイルス患者が出ております。
【一宮市 城後小児科】
- 水痘激増しています。
ヘルパンギーナも続発中
ムンプスも散発
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
- 溶連菌感染症、流行性耳下腺炎の流行が続いています。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
- 3 歳男 マイコプラズマ感染症
【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

- A 型インフルエンザ 2 名
アデノウイルス感染も少なくなりました。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
 - ヘルパンギーナが出てきました。
アデノウイルス感染症、マイコプラズマ感染症が今週もみられます。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
 - アデノウイルス感染症がまだあります。
【春日井市 春日井市民病院】
 - インフルエンザ 3 例
アデノ扁桃炎 1 例
水痘続発中
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
 - 今週も咽頭結膜熱が多くみられました。
【春日井市 ちがわ北病院】
 - ロタ腸炎の入院 2 名あり。
ムンプス流行中
【小牧市 小牧市民病院】
 - インフルエンザが尚見られます (すべて A です)。
溶連菌感染、水痘が増加してきました。
【小牧市 志水こどもクリニック】
 - ロタウイルス 1 歳女
インフルエンザ A 型 3 人
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
 - キャンピロバクター (+) 腸炎 43 歳男
【半田市 医療法人林医院】
 - 溶連菌感染症、水痘、流行性耳下腺炎散発
【東海市 小児科ハヤカワ医院】
 - 結膜炎を伴う咽頭炎・扁桃炎が増えてきました。咽頭結膜熱？
【大府市 まえはらこどもクリニック】
- <5 月報 STD コメント>
- 当院 今月 検査依頼あるもの (-)
1 人のみ クラミジア (+) でした。
【医療法人 バク諸輪診療所】

西三河地区

- 5 歳男 イムノカード S T Strep A +
3 歳男 病原性大腸菌 O25
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
- インフルエンザ A 型 1 名
【岡崎市 医療法人深田小児科】
- 1 歳女 アデノウイルス
【岡崎市 にいのみ小児科】
- 14 歳女 マイコプラズマ肺炎
インフルエンザ A 型 1 名
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
- インフルエンザ A 型 2 名 (母子例)
【岡崎市 粟屋医院】
- 水痘が流行中です。
【刈谷市 まついくリニック】
- 感染性胃腸炎が流行しています。
【三好町 三好町民病院】
- インフルエンザ A 型 4 人
水痘 8 人
【知立市 宮谷クリニック】
- インフルエンザ検体数 54 A 型 12 人 陽性率 22.2%
【安城市 安城更生病院】
- 溶連菌感染症増加
【西尾市 山岸クリニック】
- 2 ヶ月女 RS ウイルス感染症
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

- ムンプス 少し広がってきています。
【田原市 かわせ小児科】

一～三類感染症の発生状況

－愛知県(名古屋市を除く。)-

- パラチフス <関連リンク> 二類感染症
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#2-6>)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備考
1	瀬戸	50	女	3/28	4/26	5/1	推定感染地域 ネパール

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

－愛知県(名古屋市を除く。)-

- 後天性免疫不全症候群 1例(無症候性、推定感染地域:不明、推定感染経路:不明)
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hiv.html>)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

大型連休が過ぎて腕まくりして仕事です。新入社員や新入生らしい輝くばかりの若さに満ちた若人に通勤電車で出会いますが、ホームに座り込んだジベタリアンの多さも相変わらずです。いつも貴重な情報を有難うございます。4月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはA型主体のインフルエンザの流行がまだ続き、一方で高熱を伴う咽頭・扁桃炎が増加しており典型的な咽頭結膜熱もみられ、ロタウイルス腸炎も下火になったがまだ流行が続き水痘が増加中、インフルエンザやロタウイルス腸炎、扁桃炎の重症の入院が目立ちマイコプラズマ肺炎は一定数の入院あり、城北病院渡辺先生からはまだインフルエンザAの出る患者が散見、インフルエンザやアデノウイルス、RSウイルスが陰性の高熱患者の増加が目立ち、RSウイルス陽性例がまだ少しあり、百日咳患者が最近増加している、第二日赤岩佐先生からはロタウイルス腸炎の入院が散発、千種区今枝先生からは感染症は少なく感染性胃腸炎（ウイルス性）2名あり、三菱病院入山先生からはインフルエンザA型家族内感染1名（入院）、感染性胃腸炎8名（病原性大腸菌O18とO1各2名、カンピロバクター4名）とやや多く要入院2名、A群溶連菌咽頭炎が数名（2名入院）、マイコを含む肺炎の入院5-6名、中京病院柴田先生からはインフルエンザと溶連菌が少し残っているとのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からはインフルエンザの終焉と共に感染症は減少、その中でA群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎（嘔吐を主訴とし大人や年長児に多い）、ムンプスが散発中、江南市昭和病院小児科からはA群溶連菌感染症とムンプス、インフルエンザ様疾患が目立ちロタウイルス胃腸炎の入院が今年は少なく、ムンプス髄膜炎と川崎病の入院が目立つ、瀬戸陶生病院山口先生からは小児科でも病院全体でもまだインフルエンザ抗原陽性例が散見、インフルエンザA、ロタウイルス感染症、アデノウイルス陽性例の入院が複数例あり、常滑市民病院上田先生からは水痘、ウイルス性を含む感染性腸炎（入院が目立つ）、突発疹（入院例目立つ）、溶連菌感染症、肺炎球菌肺炎の入院が目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：豊田市ではトヨタ記念病院木戸先生からは溶連菌感染症、胃腸炎が流行、マイコプラズマを含む肺炎とアデノウイルス感染症入院例が散在、刈谷市田和先生からはインフルエンザAがまだ時々（1～3例/週）あり、溶連菌感染症とアデノウイルス陽性の急性扁桃腺炎がたまに（1～2例/週）あり、碧南市永井先生からはムンプスと嘔吐下痢症が目立ちインフルエンザが時々（A>B）あり、豊橋市からはインフルエンザは減少して時々、ヘルパンギーナと溶連菌感染症がぼつぼつ、ロタウイルス腸炎も少々とのお手紙でした（市内長屋先生、宮澤先生）。有難うございました。

2005 年 4 月 8 日（80 巻 14 号）http://www.who.int/entity/wer/2005/en/REH_14.pdf

☆ コレラ。セネガル。最新情報：3 月 21～27 日。保健省報告。757 例（前の週が 428 例で増加）。その後減少傾向。当局はWHOの支援でサーベイランス強化。聖地巡礼の季節にそなえ 120 か所のメディカルポスト設立。

☆ マールブルグ出血熱。アンゴラ。最新情報：3 月 30 日時点で 132 例（死亡 27）。うち 12 例が医療従事者。死亡率はこれまでの発生で最高。移動サーベイランスチームが組織され、WHOと関係専門家チームが4月上旬から発生中心のウイゲ州で活動開始。WHOが現地に緊急搬入した患者隔離用器材を用いて国境なき医師団チームが移動チームの発見した発病者の診療を担当。WHOは発生状況解析用の器材も搬入して情報収集と解析を準備中。4 月 1 日、当局発表で 163 例（死亡 150）。中心はウイゲ州。移動チームは 5 隊。噂の調査と新規患者発見、患者接触者の追跡調査。国際緊急組織と共同。

☆ 風疹。風疹ウイルス野生株の命名標準化：風疹対策立案に際して各地域における流行野生株の分子疫学的解析が重要である。特にWHOの欧州地域と南北アメリカ地域で 2010 年を目標とした先天性風疹症候群（CRS）根絶宣言が採択され、風疹ウイルスの命名法標準化が急務となった。本報は 04 年 9 月 2～3 日にWHO本部で開催された会議の概略である。①風疹ウイルスの主な遺伝子型の命名、記載、分析法の標準化を目的とする。②世界各地域で分離された風疹ウイルスの分離時期、地区、患者情報を登録して分離ウイルスを麻疹ウイルスバンク事業を担当している米国CDC（疾病予防センター）か英国の保健局が収集、遺伝子解析、分類、登録、管理する。③ウイルス分離はペロ細胞、同定は間接蛍光抗体法かRT-PCR法による。④遺伝子解析はE1エンベロープ蛋白をコードする領域の塩基配列。⑤現在まで野生流行株は1群（1a、1B～Fの6タイプ）と2群（2A、2Bの2タイプ）、合計8タイプに分類されている（遺伝子型の一覧表と遺伝子分岐図あり）。⑥遺伝子型の同定の基準、⑦命名に際して登録すべき事項が勧告された。⑧世界的分布：1a型が1984年までは世界の主流で現在もモンゴルとミャンマーで流行、その後1B（欧州、米東海岸、1C（南米、米西海岸）、1D（アジア）、1F（中国）各型が分離、最近世界的に97年に分離された1Eが流行の主流となっている。

☆ 4 月 1～7 日届出。コレラ：コンゴ共和国ク、セネガル、ジンバブエ、インド。

2005年4月22日（80巻16号 ※15号は前回紹介）

- ☆ 鳥インフルエンザA（H5N1）のヒト感染。ベトナムの最新情報：4月14日時点。保健省報告。確認追加8例。2例は4月2～8日に確認（生存）。他の6例はそれ以前に当局の調査で発見していた例の確認。昨年12月以来のベトナムの患者の累計数は42例（死亡16、治療中6）で届出市町村数は16となっている。

- ☆ マールブルグ出血熱。アンゴラの最新情報：現在実態調査中で全国レベルのデータは未集計。発生の中心地のウイゲ州の情報はサーベイランスが改善し詳細が判明。4月15日時点で224例（死亡207）、ウイゲ市が175例（死亡163）を占め他の市町村では少ない。住民の知識普及と予防策の受け入れが急務であり4月15日にはウイゲWHO事務所事務所と地区保健担当者は地区の伝統的村落首長と相談の結果1週間公務を休んで地域活動に専念、好評。地域医療機関従事者の感染対策教育は継続中。4月中旬には病院関係者と地域保健担当者教育発足。ドイツ、オランダ、スウェーデン、英国、EC人道事務局からWHOに資金協力の申し出あり。

- ☆ 予防接種の安全性。途上国を主とした世界の状況：ワクチンで予防可能な疾患に関するWHOとユニセフの合同調査報告機構（Joint Reporting Form, JRF）は1988年から標準データ収集を開始、03年には予防接種の安全性に関する01年までの結果を発表した。本報はその概略である（詳細な一覧表あり）。WHOの地区別に①非工業国で地域レベルの予防接種安全活動計画が報告されている国の数：世界全体で67%。②非工業国で予防接種に際してディスポ器材が原則として配布されている国：世界全体で82%。③予防接種後の副反応の監視システムが報告されている国：70%。いずれも01年報告に比し上昇傾向あり、定期接種の際のディスポ器材の使用国数にややばらつきを認めている（グラフあり。東南アジアでは伸びが著明であるが東地中海地域や南北アメリカでは頭打ちである）。

- ☆ 4月15～21日届出。コレラ：コンゴ共和国、リベリア、マラウイ、セネガル、米合衆国。

愛知県感染症情報

2005年第1週～第18週(平成17年1月3日～平成17年5月8日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ (成人麻しんを除く。)	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	117	79,889	632	3,168	19,632	4,927	432	370	1,820	17	10	235	10	3,272	8	399	3	0	110	0	0
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	99	63,469	476	2,239	14,046	3,862	367	294	1,386	15	3	185	7	2,531	4	324	3	0	110	0	0
名古屋	70	70	11	14	1	18	16,420	156	929	5,586	1,065	65	76	434	2	7	50	3	741	4	75					
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	14	4,134	149	211	695	224	1	25	89	1	2	10	2	68	12				35		
海部	津島	7	7	2	2		3,202		79	1,095	146	6	20	48					280	10				2		
尾張中部	師勝	4	4	1	1		2,063		56	450	115	1	17	27			2		24	11						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	4,477	24	140	1,062	222	96	10	107			10		184	1	18	1				
尾張北部	春日井	9	9	2	3	17	7,399	108	156	946	308	10	15	148	1	1	37	1	114	24						
	江南	6	6	1	2	3	2,728	59	251	1,029	305	40	11	128			18	1	272	20						
知多半島	半田	6	6	1	2	5	2,941	32	79	656	229	49	24	60	1		3		159	5				1		
	知多	7	7	2	2	7	3,757	24	314	782	177	3	17	122			1		220	15						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	5	6,122	9	153	383	245	44	13	174	3		9		330	11						
	衣浦東部	13	13	2	4	6	9,002	14	182	1,132	575	31	75	130			2	1	288	78				8		
	西尾	5	5	1	2	12	1,892	6	100	467	189	25	14	57			9		72	17						
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	8	4,635	7	224	3,019	366	19	13	124	8		5		234	49	1		45			
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1	6,844	36	183	1,310	296	24	15	108			64		50	1	42	1		17		
	豊川	9	8	1	2	20	3,611	8	110	990	443	15	25	63	1		15	2	231	2	12			2		
東三河北部	新城	2	2				662		1	30	22	3		1					5							

愛知県感染症情報

2005年第1週～第18週(平成17年1月3日～平成17年5月8日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	99	63,469	476	2,239	14,046	3,862	367	294	1,386	15	3	185	7	2,531	4	324	3	0	110	0	0
～6ヶ月	50	316	8	8	208	87	6		82	6		1		1		1					
～12ヶ月	21	951	30	14	975	247	29	8	796	1		9	1	11		3					
0歳																	2		4		
1歳	15	3,267	98	82	2,278	653	75	22	471	1	1	47	1	105		7			15		
2歳	10	3,665	67	126	1,496	687	66	18	33			40	1	233	1	16			20		
3歳		4,308	89	227	1,199	694	56	29	3	1		35		343		12	1		11		
4歳	1	5,512	76	403	1,123	672	51	43				23	1	534		9			10		
5歳	1	5,461	42	461	944	413	34	41				9	2	441		10					
6歳	1	5,330	34	313	680	182	19	43		1		4	1	351	1	3					
7歳		3,994	5	190	520	80	6	31			1	6		166		2					
8歳		3,624	4	131	421	49	4	19				2		117		2					
9歳		3,175	6	83	357	20	2	15				3		67		2					
5歳～9歳																			29		
10歳～14歳		5,794	9	117	862	54	3	18	1		1	5		112		7			6		
15歳～19歳		988		7	316	7		1						6		4			1		
20歳～			8	77	2,667	17	16	6		5		1		44							
20歳～29歳		4,252														44			1		
30歳～39歳		6,101														94			4		
40歳～49歳		2,627														33			1		
50歳～59歳		1,851													2	26			1		
60歳～69歳		1,144														25			3		
70歳～																24					
70歳～79歳		675																	3		
80歳以上		434																	1		